

平成23年度第1回射水市上下水道事業経営委員会議事録（要旨）

日 時：平成23年7月26日（火） 午後1時30分～午後3時

場 所：射水市役所布目庁舎 3階301号室

- 議 事：1 上下水道事業の決算・予算の概要について  
 2 平成23年度上下水道部主要事業一覧表について  
 3 水道ビジョンの進捗状況と今後の取組みについて  
 4 県営水道用水受給協定の改定内容について  
 5 雨水対策基本計画について

【 意 見 】	【 市の考え方 】
【水道事業に関すること】	
鉛製給水管更新事業の状況について伺いたい。	鉛製給水管更新事業は平成15年度より事業を開始し、来年度（平成24年度）が完了予定である。更新件数約18,000件のうち、平成22年度末の残件数は4,516件となっている。
有収率について伺いたい。	有収率は事業規模により違う。大都市など配水管使用効率が高い事業体は効率よく漏水防止作業が出来ることから95%を超える事業体が多いが、配水管使用効率が低い事業体はどうしても低くなってしまう。 なお、平成21年度実績では富山市が92.9%、高岡市が90.1%で本市の有収率（93.2%）は県下で一番である。
漏水の原因について伺いたい。	ほとんどが経年劣化による漏水である。本市では石綿管や老朽铸铁管などの更新事業は終了しているため、他都市と比べると件数は少ない。また、多くは給水管からの漏水であるが、これも鉛製給水管更新事業を行っているので件数は少なくなっている。
【下水道事業に関すること】	
不明水はどのくらいあるのか伺いたい。	有収率としては73%程であり、特に桜町処理区と太閤山処理区の有収率が悪い。不明水対策の観点からも、現在老朽化した施設の長寿命化計画を立て、管更生事業を行っている。
【事業全般に関すること】	
東日本大震災において職員を派遣し、多くの職員が被災地の状況を目の当たりにしたと思うが、学んだことはあったか。	水の重要性を改めて感じさせられた。耐震性貯水槽について、事業計画では平成28年度以降の計画としていたが、前倒ししなければならないと考えている。また、自己水源も重要であり、広上取水場については更新事業が完了したが布目配水場についても早期に改修したいと考えている。 県営和田川浄水場には自家発電設備がないため、県に対して設備投資してもらおうよう訴えていく。 被災地では液状化によるマンホールの隆起が見られた。当市においても古い箇所については隆起する恐れがあり、新設する際にはリブ管を採用し碎石を利用するなどの工法を使っている。

【委員会】 No. 1



【委員会】 No. 2

